



「ふるさと研究活動」は、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化等に関する資料収集、調査・研究を行い、その成果を展示・講座等の事業を通じて、広く市民に伝えていくことを目的としています。

これから行う行事を以下に紹介します。「もっと所沢について知りたい」「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしています。

冬期 企画展



ところざわ繁盛記～町場のくらし展

ボランティアによる展示解説あり
毎週土日、午前11時～午後3時
申込不要(随時)

会期：令和3年12月14日(火)～令和4年2月27日(日)

会場：生涯学習推進センター 3階 企画展示室、常設展示室

所沢は江戸時代より三八の市が開かれ、物流の拠点、交通の要衝として繁栄し、明治・大正期には織物取引で賑わっていました。

現在のタワーマンションが立ち並ぶ中心市街地付近には、多くの商家が建ち並び、料亭や旅館、職人の家も数多く存在していました。明治・大正・昭和の町場の歴史やくらしを資料を通して紹介します。



関連事業

2月5日(土)商家・職人の道具体験デー：

第1回 午前10時～ 第2回 午後1時30分～ ※各回先着30名 1月4日(火)から電話申込開始

2月13日(日)秋田家住宅特別公開：午前10時～午後3時

※2月1日(火)から電話申込開始 (詳細は「翔びたつひろば」2月号でご案内)

第23回三ヶ島葎子資料室講演会 三ヶ島葎子の祈り

日時：令和4年1月28日(金) 午後2時～3時30分

会場：三ヶ島まちづくりセンター (三ヶ島公民館)

所沢市三ヶ島5-1639-1

講師：秋山佐和子氏 (歌誌「玉ゆら」編集発行人)

定員：申込先着100名

申込：午前9時から電話で受付 ※ 祝日休

申込先・問い合わせ：所沢市文化財保護課 電話 04-2991-0308

残り僅かです
お早めにお申し込み
ください



三ヶ島葎子

令和3年9月24日に行う予定
でしたが、延期になりました

体験学習会

狭山丘陵探検隊



～冬ごしする虫たちをさがしてみよう～

日時：令和4年3月5日(土) 午前10時～11時30分

会場：埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センターおよびその周辺

定員：市内小学生とその保護者 10組 (1組3名以内)

申込受付：往復はがきで申込 2月15日(火)必着 (抽選)

くわしくは、「翔びたつ
ひろば」2月号をみてね



第14回所沢市伝統芸能発表会

「重松流祭ばやし」は、所沢で生まれた古谷重松が編み出した囃子の流派で、所沢を中心として、東京都多摩地域で伝承されています。特徴は、テンポの良さと屋台囃子の小太鼓2つ(地と絡み)の掛け合いにあるといわれています。

「岩崎獅子舞」は、所沢山口の岩崎地区に伝承されており、岩崎村の地頭 宇佐美助右衛門長元が、大坂冬の陣で戦功を立て、帰途に京都で3頭の獅子頭を買い求め、獅子舞の師匠を伴い凱旋し、村の若者に稽古をさせたのが始まりといわれます。

この2つは、昭和44年に所沢市無形民俗文化財に指定され、保存会の皆さんによって受け継がれています。当日は、5団体が出演、重松流祭囃子の実演が見られます。(岩崎獅子舞は、解説のみ)

日時：令和4年2月20日(日) 午後12時45分～2時30分

(開場予定：12時15分)

場所：所沢市民文化センター ミューズ 中ホール

出演・共催：重松流祭囃子保存会 岩崎獅子舞保存会

申込：先着120名 (事前申込制)

往復はがきに氏名・住所・電話番号を記載し、下記に送付。令和4年1月12日(水)必着。はがき1枚に1名。

問い合わせ・宛先：所沢市文化財保護課

〒359-0042 所沢市並木6-4-1 ☎ 04-2991-0308

※新型コロナウイルスの感染状況によって、無観客で開催となることもありますので予めご了承ください。



与謝野晶子も所沢に来た!?

〈ふるさと研究市民トピックvol.23〉

与謝野晶子(1878-1942)は、昭和13年8月28日に、当時所沢に住んでいた息子の光に会うため、所沢に来ています。

昭和13年8月27日井上苔溪宛晶子書簡に、「明28日には一寸所沢の光のところへまゐらんと存じ居り候」、同年8月29日西村一平宛昌子書簡に、「西村一平様 昨日長男を所沢に訪ひ帰宅致して御手紙に接し、私は恐れ候ところの血脈の高まるを覚え候。」とあります。(*1)

昭和12年、東京市・京橋の「都市保健館」と共に、公衆衛生の技術者養成機関として、所沢に日本で初めての「農村保健館」(埼玉県特別衛生地区保健館)が開設されました。この保健館の初代館長が、与謝野寛・晶子夫妻の長男である与謝野光でした。(*2)

光の妻迪子は、所沢の家と晶子が来た時の様子を「昭和13年の春、私達は所沢に町役場のきも煎りで、よい貸家を見つけて貰い引っ越した。駅からは少し遠いが、広い家で庭もかなりあった。一坪ほどのたたきの踏み込みに四畳半の玄関、本床つきで広い縁もついた八畳の座敷を入れて階下が四間のまだ新しい建物でゆったりしていて、南面のつき山のある庭にはよい枝ぶりの木などが植えてあって、自由に使ってよいとのことだった。」

「同じ年、義母は盲腸炎の手術を受けた。新詩社関係の湯浅先生のお世話で三楽病院に入院、手術は無事に終わったがおなかの脂肪が多くて、傷口がふさがらず後をひいた。(中略)旅行好きの義母は、私達の心配ほどもなく、所沢へも訪ねてくれた。今までより少しは広い家を見て、安心もし庭のつき山にも上がってみたりして喜んでくれた。」と書いています。(*3)

〈参考資料〉 *1…『与謝野寛晶子書簡集成 第4巻』 逸見久美編/八木書店/2003年

*2…『ところざわ歴史物語』(増補改訂版) 所沢市教育委員会/2020年他

*3…『想い出』 与謝野迪子著/三水社/1984年

(上記の資料は、所沢図書館で所蔵しています)

所沢市教育委員会 文化財保護課 ふるさと研究グループ

所沢市並木6丁目4-1 Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.lg.jp